

3R瓦版（8月号）



© 2015 フジコ イトウ All Rights Reserved.

プロ野球と省エネ

暑い夏の夜、いかがお過ごしですか？ビール片手にプロ野球を楽しんでいるお父さん方も多いのではないのでしょうか？かくいう私も大の野球ファンで、夏の夜の一番の楽しみになっております。

さて、今日はこのプロ野球と省エネについて考えてみたいと思います。まず、プロ野球の試合開催によってどれぐらいのエネルギーが消費されているか、ご存知でしょうか？少し古いですが、2008年の電力消費量のデータを見つけました。それによると、ドーム球場で1試合平均約49,000kWh、屋外球場で14,700kWhだそうです。かなりの消費量です... また、ドーム球場は昼間も照明が必要だったり、空調をかけていたりするので消費量が多くなります。

この数字は、2007年から比べると全体で2.58%の削減になっています。実はNPB（日本プロ野球機構）はこの2008年からGBP（Green Baseball Project）というプロジェクトを実施していて、主に試合のスピードアップによる試合時間短縮に取り組んでいます。また、選手は開幕戦やオールスター戦等の節目の試合でグリーンのリストバンドをつけてプレーし、この活動を社会にアピールしています。やはり野球の場合は、試合時間の短縮がエネルギー消費量削減に密接に関わってきます。

この試合時間というのは、投手の投球間隔に大きく左右されます。構えてから中々投げない投手は見ていてもイライラしますが、それによって環境にも悪影響を与えているということになります。ここに面白いデータがあります。2014年の平均投球間隔の短い投手と長い投手のリストです。

<短い>

牧田 和久（西武）18.5秒
バrinton（広島）20.0秒
石川 歩（ロッテ）20.7秒
内海 哲也（巨人）21.1秒
松葉 貴大（オリ）21.1秒

<長い>

小川 泰弘（ヤクルト）29.1秒
塩見 貴洋（楽天）26.2秒
モスコソ（横浜）26.1秒
中田 賢一（ソフト）25.9秒
辛島 航（楽天）25.8秒

一番短い牧田投手と長い小川投手では10秒以上もの差があります。1試合で両軍合わせて300球投げるとすると、1秒ごとに300秒、すなわち5分違うこととなります。全投球で10秒違えば50分も差が出ることとなります。やはりピッチャーはテンポ良く投げて欲しいものです。

また、試合時間短縮以外にも色々な取り組みが行なわれています。今年から、横浜スタジアムと福岡ヤフオクドームでは照明がメタルハライドランプからLEDに変わりました。横浜スタジアムでは消費電力が56%も削減されたとのこと。他にも折れたバットをリサイクルして箸を作るプロジェクトを実施したり、選手会が温暖化防止を訴えるイベントを行ったり、色々な環境活動を行なっています。

今年の夏は、こんな話を思い出しながらプロ野球を見て頂くと、環境に関わっている我々としては、また面白い見方ができるのではないのでしょうか？

パナソニック（株） 杉本 真一

RepairFactory (株)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見220番地

tel : 0774-66-6254